

自然科学研究機構 × Princeton University 生命科学研究 最前線!

幹細胞研究からみる 命のバトンのメカニズム

2019

10/31 (木)

18:00 - 20:50

(17:30 受付開始)

日本橋ライフサイエンス
ビルディング
2階 201 議室

自然科学研究機構 (NINS) は、国立天文台・核融合科学研究所・基礎生物学研究所・生理学研究所・分子科学研究所からなる研究機関であり、自然科学分野において最先端の研究を実施しています。今回は、自然科学研究機構と、その共同研究機関であるプリンストン大学の研究者をお招きし、ライフサイエンス分野の研究成果をご紹介します。

「私たちはどこからきて、どこへ向かうのか。」この究極の問いは、我々人類にとっての永遠の命題であり、研究者の探究心の根源とも言えるものです。今回は、この命題に直結した研究テーマである「発生生物学」研究から、生物の必須構成要素であるタンパク質の構造と機能の具体的な解明を目指す「プロテオミクス研究」と、オスの精子幹細胞が精子へ分化するメカニズムの解明を目指す「遺伝学研究」といった、2つの最先端研究について皆様にご紹介します。

講演 第一部



Ileana M. Cristea

Professor, Department of Molecular Biology and Lewis-Sigler Institute for Integrative Genomics, Princeton University

“Organelle Shape and Function in the Context of Viral Infections”



ウエノ ナオト

上野 直人

自然科学研究機構 基礎生物学研究所 教授 (副所長)

「生命科学におけるプリンストン大学との共同研究
—真の国際共同研究とは?—」

講演 第二部



キタダテ ユウ

北館 祐

自然科学研究機構 基礎生物学研究所 助教

「精子を作り続けるために生き物があみだした巧妙な原理を
学び、制御することを目指す」

Networking Night *with supporters*

プログラム（通訳なし）

- 17:30 - 受付
- 18:00 - 開会、LINK-J 紹介
- 18:10 - 自然科学研究機構 紹介
- 18:20 - 講演 第一部
- 19:20 - 講演 第二部
- 19:50 - ネットワーキング
- 20:50 閉会

会場へのアクセス

日本橋ライフサイエンスビルディング 2 階

東京都中央区日本橋本町 2-3-11
日本橋ライフサイエンスビルディング
東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅 A6 出口より徒歩 3 分
または JR 総武線「新日本橋」駅 5 番出口より徒歩 2 分



参加申し込み

下記サイトよりお申込みください

<https://linkj-nwn38.peatix.com>



※ LINK-J サポーター・会員の方は、割引コードをお伝えしますので、LINK-J までご連絡ください。

参加費

LINK-J 会員 ¥500
非会員 ¥2,000

※飲みもの、軽食付（懇親会）

登壇者プロフィール

Ileana M. Cristea

Ileana Cristea is a Professor in Molecular Biology at Princeton University. Her laboratory investigates mechanisms of cellular defense against viruses to uncover novel targets for therapeutic intervention. For this, she integrates virology with proteomics and bioinformatics. Her group has contributed to the emergence of the field of nuclear DNA sensing in immune response, and has discovered sirtuins as antiviral factors. Dr. Cristea is President of the American Human Proteome Organization (US HUPO), editor of several journals, and was recognized with a number of awards, including the NIH NIDA Avant-Garde Award for HIV/AIDS Research and HUPO Discovery Award in Proteomic Sciences.

上野 直人 Ueno Naoto

筑波大学にて血圧調節酵素レニンの研究で農学博士を取得（村上和雄教授）、米国ソーク研究所神経内分泌研究室（Roger Guillemin 教授）にてポストドク。インヒピン、アクチビン、FGF などの細胞増殖因子の精製・構造決定に携わる。その後発生生物学へ分野を変え、骨形成因子（BMP）の発生における役割を明らかにする。筑波大学応用生物化学系講師、北海道大学薬学部教授を経て、現職。国際分化学会、日本発生生物学会会長を歴任。本年4月より同機構国際連携研究センター・イメージング生物学研究部門（IRCC-QIB）部門長。

北舘 祐 Kitadate Yu

2007年 総合研究大学院大学 博士課程修了。大学院から一貫して基礎生物学研究所という最先端の研究環境で研究に没頭し邁進してきた。現在、数理生物学的手法を駆使して、精子をつくる幹細胞の数を調節する仕組みを研究している。精子幹細胞の数を操ることで構成的に理解するとともに、研究成果を社会へ還元する方法を模索している。

お問合せ

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）

TEL:03-3241-4911（平日 9:00-17:00）
E-mail:contact@linkj.org web:www.linkj.org

